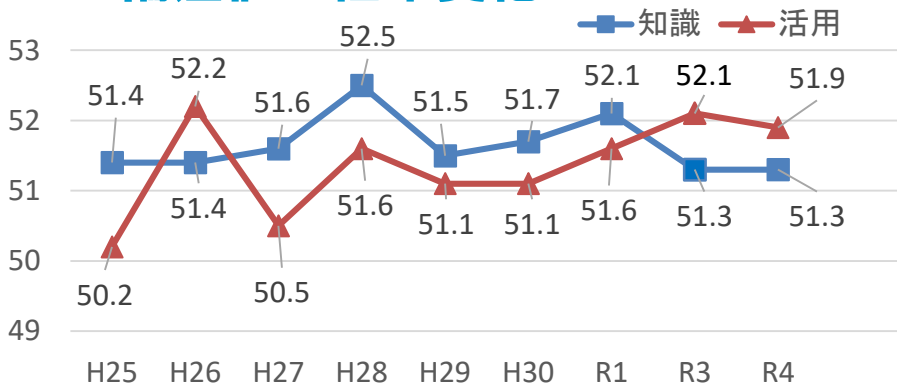


※目標値・・・学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童・生徒の割合を示したもの。

## 結果のポイント

### 1 偏差値の経年変化



○知識、活用ともに偏差値50を上回っている。

### 3 領域別の結果

領域	県正答率	全国正答率	目標値
言葉の特徴や使い方に関する事項	74.6	72.8	69.0
情報の扱い方に関する事項	61.7	59.1	56.7
我が国の言語文化に関する事項	68.5	68.2	70.0
話すこと・聞くこと	62.8	60.7	60.0
書くこと	63.0	48.6	52.5
読むこと	74.0	73.3	71.7

○全ての領域において、全国正答率を上回っている。  
○「書くこと」においては、全国正答率を14.4Pと大きく上回っている。

### 2 観点別の結果

観点	県正答率	全国正答率	目標値
知識・技能	71.4	69.6	66.4
思考・判断・表現	67.3	62.5	62.7
主体的に学習に取り組む態度	55.2	45.8	50.0

○全ての観点において、全国正答率を上回っている。

### 4 解答形式別の結果

解答形式	県正答率	全国正答率	目標値
選択	71.8	70.5	69.2
短答	81.1	81.5	74.3
記述	56.7	46.1	50.0

▲短答式の問題において、全国正答率を0.4P下回っている。

## ■ つまづきが見られた問題

大問6(1) 県正答率38.4% 無解答率20.5%

情報と情報との関係についての理解

◇情報と情報との関係について理解し、相手に伝わるように理由や事例を挙げながら話の構成を考慮することができるかどうかをみる。

▲(発言者の)考えが、どのような理由によって支えられているかを吟味することに課題がある。

## ◆ 指導のポイント

★[知識及び技能]に示す事項は[思考力・判断力・表現力等]に示す指導事項の指導を通して行うことが基本。

[情報の扱い方に関する事項]「ア 情報と情報の関係」については、以下の指導事項との関連を図り、指導の効果を高めることが考えられる。

・「A話すこと・聞くこと」(1)「イ 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考慮すること。」

・「B書くこと」(1)「イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考慮すること。」「ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。」

・「C読むこと」(1)「ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係について叙述を基に捉えること。」

## ★ 指導の具体例

※第5・6学年で以下のような授業を実施し、確実な定着を図る。

単元名「新聞記事から考えたことを伝えよう」

〈学習活動〉自分の考えが明確に伝わるような意見文を書く。

①題材を決め、自分の考えをもつ。

・関心のあることから題材を決める

・主張とそのように言える理由を挙げる

・根拠を示す(自己の経験や図書館等で調べる)

②読み手の立場から、主張を見直す。

・友だちと、説得力があると感じたところや改善したほうがよいと感じたところを交流する

③文章の構成を決める。

④意見文を書く。

⑤意見文を読み合い、互いの意見文のよいところを伝え合う。

※ 指導に当たっては、第5・6学年の指導事項「B 書くこと」の「イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考慮すること」や「ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」などとの関連を図り、それらを身に付けさせる過程において、第3・4学年の指導事項についての活用場面を設け、資質・能力を定着させることが考えられる。